

研究・調査報告書

報告書番号	担当
121	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Intimate partner violence and initiation of smoking and drinking: A population-based study of women in Yokohama, Japan. 親密なパートナーによる暴力と喫煙・飲酒開始との関連: 横浜の女性一般住民における検討	
執筆者	
Yoshihama M, Horrocks J, Bybee D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Soc Sci Med. 2010 Sep;71(6):1199-207. Epub 2010 Aug 5.	
キーワード	
日本、親密なパートナーによる暴力、家庭内暴力、嗜好品使用、アジア、タバコ、酒、生存分析、女性	
要 旨	
<p>親密なパートナーによる暴力(IPV)は、世界全ての女性に関わる問題であり、女性の嗜好品使用とも関連することが報告されている。</p> <p>WHO の国際比較研究の一環として、本研究では酒・タバコの使用と IPV 経験との関連を18-49歳の横浜在住女性サンプルにおいて検討した。2000-2001年のレトロスペクティブデータを用いて、生存分析の手法により IPV 経験とその後の喫煙・飲酒開始率との関連を検討した。</p> <p>IPV 経験は、喫煙開始年齢・現在の飲酒パターンに加え、現在の喫煙習慣とも関連していた。IPV 経験があった女性は、なかった女性に比べ、面接調査時に喫煙者である割合が高く、また喫煙開始年齢が早い傾向があった。調査時点に関わらず、IPV 経験があった女性の喫煙開始リスクは、なかった女性に比べ二倍高かった。加えて、IPV 経験があった女性には、多量飲酒の傾向が認められた。</p> <p>本研究により、IPV 経験のある女性の安全と健康の増進のための、IPV 予防および嗜好品使用に関するプログラム間の、協調した取り組みの必要性が明確に示された。</p>	